

プリセプター制度の現状と課題

著者	小宮山 陽子, 水澤 千代子, 岡村 典子
雑誌名	看護研究交流センター活動報告書
巻	27
ページ	59-62
発行年	2016-04
URL	http://hdl.handle.net/10631/00001324

プリセプター制度の現状と課題

小宮山陽子¹⁾、水澤千代子¹⁾、岡村典子²⁾

1)新潟県立中央病院 2)新潟県立看護大学

キーワード：プリセプター，新人看護師，文献検討

目的

新卒看護師の能力開発のため，先輩看護師が職場内でトレーニングしていく教育手法として，プリセプター制度があげられる．プリセプター制度の土壌として欠かせないのが，職場内で仕事に必要なことをマンツーマンで上司や先輩が教える OJT(On the job training)であり，効果的な OJT の実施によって，プリセプターシップが円滑に進み，新卒看護師および先輩看護師がともに成長・発達できるとされている．しかし，医療情勢の高度化，診療報酬改定による看護配置の新たな基準等が看護師の離職率を引き上げている現状のなかで，効果的な OJT を実施可能とする環境調整は困難を擁している．また，現在はパートナーシップ制度の導入により，プリセプター制度に関する検討も始まっている．プリセプター制度は，1970 年代から英語圏の医療界で取り上げられ，我が国においては 1980 年代後半から導入が始まった．ただ，その推移を検証した研究は 2000 年までを対象にした文献レビュー(市川ら，2003)はあるものの，それ以降は管理者からの報告(海老澤，2005)のみで限られている現状にある．

研究者らは，プリセプターを育成する研修(小宮山，2012)に携わってきたが，新卒看護師を取り巻く様々な問題と，その新人を指導するプリセプターの疲弊や行き詰まりといった課題から，プリセプター制度の見直しの必要性を感じている．そこで，当該施設のみの現状からだけでなく，論文等の知見といった客観的な視点，及び看護体制の変化にも焦点を当てながら，プリセプター制度の現状と課題を検討していくことが重要と考え，研究として取り組むこととした．

方法

I. 研究デザイン

文献研究

II. 対象文献

2000 年～2014 年までのプリセプターに関する研究論文を対象文献とした．

III. 調査期間

平成 27 年 9 月～平成 28 年 2 月

IV. 調査内容・方法

プリセプターに関する国内における研究論文を対象文献とし，医学中央雑誌を用いてキーワードを「プリセプター」に設定し，2000 年～2014 年までに発表された研究を検索した．検索日は，平成 27 年 9 月 15 日である．なお，キーワードに「新卒看護師」も設定した場合，保健師や助産師に関する文献が検索されないことからキーワードは「プリセプター」のみとした．

検索の結果，“看護分野”“原著論文あるいは研究報告”に該当するものを抽出した結果，22 件の文献を分析対象とした．

V. 分析方法

文献の内容を抽出するにあたり，安部(2015)が紹介している文献レビューのフォームを参考に，「目的」「デザイン」「研究対象」「データ収集」「分析方法」「結果」「考察」により構成さ

れたフォームを用いた。

入力された文献内容を精読し、目的と研究対象に焦点をあてながら、プリセプターの現状と課題について記載されている内容を抽出し検討を行った。

VI. 倫理的配慮

文献・資料内容の収集、そして収集したデータの分析にあたっては、その内容を忠実に抽出すること、また日本看護協会が提示している看護研究における倫理指針 (<http://www.nurse.or.jp/senmon/kenkyu-rinri.pdf>) を行動指針として遵守して行った。

結果

2000年～2014年までのプリセプターに関する研究論文のうち対象とした文献は22件であった。分析対象とした文献22件を5年毎の年数で区分してみると、2000年～2004年は2件、2005年～2009年は13件、2010年～2014年は7件であった。

これらを検討した結果、“プリセプターが捉えた新人看護師との関わり” “新人看護師が期待する支援” “新人看護師とプリセプターの両者の捉え方の違い” の3つに大きく分けることができた。

まず、“プリセプターが捉えた新人看護師との関わり” では、山本(2003)は、プリセプターは自己成長を実感しているが、「新人教育以外にすることが多い」との意見もあり、病棟内の活動についても業務や役割、責任などが求められている状況を記載していた。また、プリセプターは、プリセプティが業務遂行上早く立ち立つこと、看護チームの一員として機能することを視点にしてプリセプティの困難や課題を捉えているとともに、その内容はプリセプティの業務遂行を中心にしており、新人看護師への精神的なサポートは不十分である(原田ら、2009)との指摘もあった。“プリセプターが捉えた新人看護師との関わり” の中には、小児看護領域(NICU 含む)、そして保健師におけるプリセプター制度に関する文献もみられた。小児看護領域では、プリセプターは、プリセプティが子供や家族との関係作りや説明の仕方ができるよう関わっており、他の領域と比較して患者の権利、つまりは子どもの権利を守ることや子どもを尊重することの指導に敏感になっているとの報告(西田、2007)があった。また、保健師がプリセプターの役割を担うことに関する文献(嶋津・麻原、2014)では、プリセプターが組織に関わりスタッフと育ち合う環境をつくったことは、組織改革の実現しやすい組織風土の醸成につながった、と報告している。これらの研究では、置かれている現場の特色はあるものの、プリセプターは、新人看護師が日々の業務を通して実践能力を培えるように関わっており、かつ自身も成長していることを自覚しているといった内容は、他の文献と同様であった。

次に、“新人看護師が期待する支援” では、新人看護師の職場適応に影響を及ぼしているものとして、先輩看護師のロールモデル支援が高いものの、調整機能支援の低さが報告(三輪・志自岐ら、2010)されていた。併せて、新人看護師の精神的身体的疲労を軽減し、リアリティショックを乗り越えられるような支援が不可欠と指摘している。また、誰からどのような支援が欲しいのかについて、新人看護師は、先輩看護師、プリセプターからの支援をあげており、業務において【一緒に考え一緒に対応】することや、【業務遂行上の助言・指導】を先輩看護師やプリセプターに求めている(唐澤・中村ら、2008)。

“新人看護師とプリセプターの両者の捉え方の違い” では、新人看護師のリアリティショックが取り上げられていた。そのなかで、プリセプターは「業務の多忙さと待遇」を新卒看護師のリアリティショックとして捉えているが、新人看護師は「看護実践能力」の不足についてリアリティショックを感じていた(平賀・布施、2007)。この相違は、プリセプター自身が感じている日々の業務の多忙さを、新人看護師も感じていると認識したことが反映されたと分析していた。また、プリセプ

ターが新卒看護師のリアリティショックを適切に察知することが出来れば、新卒看護師のリアリティショックの軽減への働きかけにつながり、早期の離職防止への歯止めにつながる、との記載がみられた。こうした認識の差異は、別の文献(石塚・藤村ら, 2002)でも述べられていた。

考察

対象文献 22 件を検討した結果、“プリセプターが捉えた新人看護師との関わり”“新人看護師が期待する支援”“新人看護師とプリセプターの両者の捉え方の違い”の 3 つに分けることができた。これらの内容から、プリセプターの役割の整理、プリセプターを支援する人の存在、の 2 点について考察する。

プリセプターは、自身の役割を新人看護師が日々の業務を通して看護実践能力を培えるように関わること、としているが、これは技術面に関する関わりがメインであり、幾つかの文献では、プリセプターの役割として、新人看護師の精神面でのフォローを期待していることがわかった。このようなプリセプターの役割に関する相違は、プリセプターについての用語の定義が、“ある一定期間、一人の新人看護師に対してマンツーマンで関わる先輩看護師”と抽象的な内容にしている報告がみられること、また、幾つかの文献が、プリセプターに関する役割が曖昧であることを指摘していることが、反映されていると推測された。プリセプターの役割については、新人看護師の能力開発を主とし、精神的なフォローはメンターの位置づけとして別の者が担う(永井, 2009)ことも指摘されていることから、各部署においてプリセプターの役割を整理し、メンターを別に設ける、あるいは職務分担を明確にするなどの柔軟な対応が必要であると考えられる。

また、文献で取り上げられているプリセプターは、概ね 20 代であり、看護者経験年数が 5 年前後であった。このことから、若いために、社会経験および臨床経験も乏しいプリセプターの多くが、その任務を担っていることが推測された。また、プリセプターは、技術面での自信のなさを抱えていること、および業務における遂行能力が乏しいことが報告されていることから、プリセプターを支援する人の存在が重要であると考えられる。プリセプターを支援する人として、新人看護師だけでなくプリセプターにもメンターを設ける、あるいは新人看護師と関わる内容をコーディネートする先輩看護師(管理者、主任等)の存在など、プリセプターシップを採るうえでの構造・ルールを、整備・作成していくことが必要であるといえる。

結論

- 1) 対象文献 22 件を検討した結果、“プリセプターが捉えた新人看護師との関わり”“新人看護師が期待する支援”“新人看護師とプリセプターの両者の捉え方の違い”の 3 つに分けることができた。
- 2) プリセプターは、新人看護師の能力開発を主とした場合、精神的なフォローはメンターを設けるなど、各部署にてプリセプターの役割の整理が必要である。
- 3) プリセプターを支援する人として、メンターやコーディネートする先輩看護師(管理者、主任等)の存在が必要であり、プリセプターシップを採るうえでの構造・ルール化も整備していくことが重要である。

文献

安部陽子(2015):看護研究のための文献レビュー マトリックス方式の意義と実際,看護研究, 48(6), 589-595.

海老澤陸(2005):プリセプターシップの光と影 管理者の役割と責任 「リアリティショックの緩

- 和]「役割モデルとして」「自己成長」の観点から文献レビュー, 看護管理, 15(3), 190-194.
- 原田慶子, 唐澤由美子, 大脇百合子他(2009): プリセプターが捉えたプリセプティの就職半年後の困難や課題とプリセプターの反応, 長野県看護大学紀要, 11, 19-27.
- 平賀愛美, 布施淳子(2007): 新卒看護師のリアリティショックとプリセプターからみた新卒看護師のリアリティショックに関する認識の相違, 日本看護研究学会雑誌, 30(1), 109-118.
- 市川和可子, 佐藤るみ子, 大藪七重(2003): わが国における新卒看護師に関する文献の検討, 福島県立医科大学看護学部紀要, 5, 31-39.
- 石塚博子, 藤村博之, 後藤直子他(2002): 新人看護師とプリセプター間のリアリティショックについての認識の比較分析, 看護展望, 27(11), 1283-1287.
- 唐澤由美子, 中村恵, 原田慶子他(2008): 就職後1ヶ月と3ヶ月に新人看護者が感じる職務上の困難と欲しい支援, 長野県看護大学紀要, 10, 79~87.
- 小宮山陽子, 尾矢博子, 岡村典子他(2012): プリセプターの役割認識に関する研究(2), 第43回日本看護学会論文集 看護管理 2012, 463.
- 永井則子(2009): プリセプターシップの理解と実践 新人ナースの教育法, 日本看護協会出版会.
- 永井則子(2015): 新人育成のお悩み相談, 日本看護協会出版会.
- 西田志穂(2007): 小児専門病院以外の小児看護の臨床におけるプリセプターの関わり, 日本赤十字看護大学紀要, 21, 24-32.
- 嶋津多恵子, 麻原きよみ(2014): 保健師がプリセプターの役割を担うことによる認識の変化, 日本看護科学会誌, 34, 330-339.
- 山本英子(2003): プリセプターのストレスとサポートシステム ー影響因子の分析ー, 看護展望, 28(7), 838-846.